

## 新学習指導要領における国語科の展開

共栄大学教育学部 光野公司郎

### 1 教科教育「国語科」では何を教えるのか。

- ・国語科で扱う言語は日本語である。
  - 日本語を母語とする者にとっては「教えてもらわなくてもほぼできるようになる」「日常生活にもほとんど困るようなことはない」
- ・なぜ、教えなくてもできる日本語を教える必要があるのか。 CF：2年生(315/910h)
  - 「ほぼできる」ものを「よりよくできる」ようにする。
    - \*人間は母語によって思考している。母語が日本語であるものにとっては、日本語がよりよく使えればよりよく思考することができる。これはよりよく生きていけることにつながっていく。
- ・では、何を教えるのか。
  - 「教えてもらわなければならないこと」のみを教える。
- ・それは何か。
  - それが書かれているのが「学習指導要領」である。
    - \*教えなければ身につかない知識(漢字や敬語等)、教えなければ身につかない思考・判断・表現の在り方
    - \*決して教材内容に関する知識や教材から読み取れる道徳性等ではない。(✕教科書<sup>㊦</sup>教える)
      - (1年『じどうしゃくらべ』→自動車図鑑を作ろう。自動車博士になろう。)
      - (1年『おおきなかぶ』→みんなで力を合わせることは大切だね。これからみんなで協力しよう)



#### 校内研修のポイント

－「脱 内容主義」「脱 気持ち主義」「脱 活動主義」の徹底－

### 2 教えなければ身につかない思考・判断・表現の在り方とはどのようなものか。

- \* 人間は自分の言いたいことを伝えるために二つのタイプの思考を行っている (J・ブルナー)
- ① 物語的 (ナラティブ的) 思考
  - 個々の事象を、一つのストーリーの中に位置づけることによって意味づけ、そのストーリーをもって、世界や自己自身を代表させてゆくいとなみ
  - ↓
  - 主張を物語として語る (間接的に)
- ② 論理的 (カテゴリー的) 思考
  - 個々の事象を、論理的因果則に従った情報処理に依拠する思考によって関連づけ、筋道立てて展開し、客観性を持って理性に訴えていくいとなみ
  - ↓
  - 主張を論理として語る (直接的に)

### 3 物語的（ナラティブ的）思考力向上のための指導法 = 文学的な文章を「読むこと」の意義

文学的な文章の読解→△ 豊かな人間性の育成(あくまでも指導の結果。決して目的にはならない)

→○ 文学を読む能力の育成(ひとりで文学が読める。自立した読書人になる)

＜小学校における「文学的な文章の解釈」に関する指導事項＞

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。	イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、 <b>叙述</b> を基に捉えること。 エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、 <b>場面</b> の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。	イ 登場人物の相互関係や心情などについて、 <b>描写</b> を基に捉えること。 エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。



「場面」「叙述」「描写」の読み方を、(◎教科書)で教える



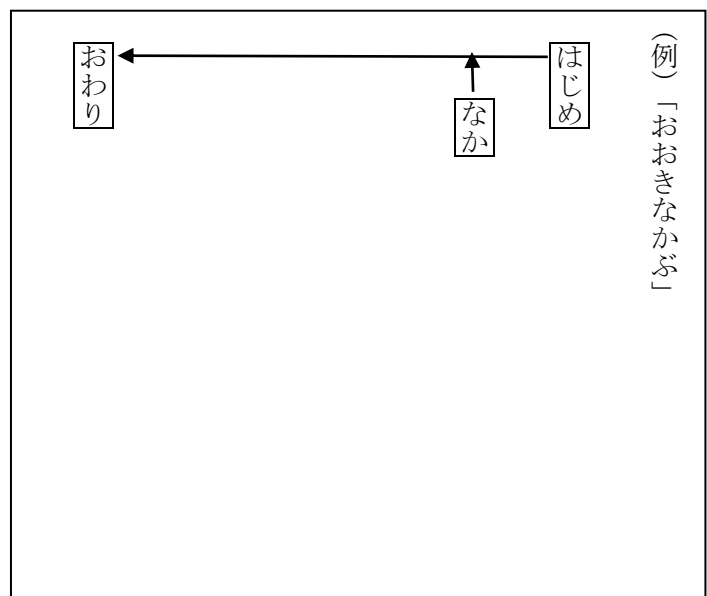
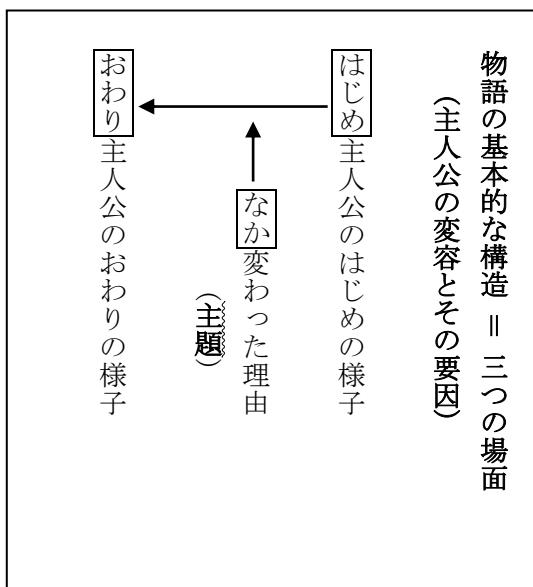
\* 中心人物の変容とその要因が「場面」を構成する要素となる。

＜参考：市毛勝雄氏の文学構造理論＞

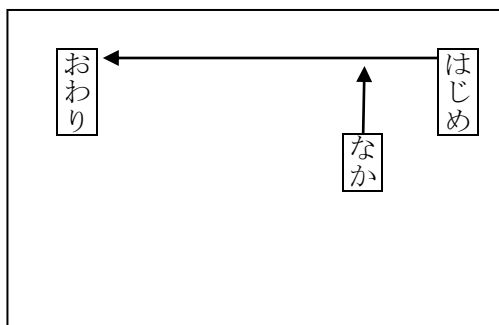
- ・「物語の基本形」として「始め—中—終わり」という構造がある。この構造は、中心人物の変化の過程を構造的にとらえたものである。～ 登場人物の変貌に着目させるという指導は、文学作品の構成そのものに気づかせようとする意図を秘めている。さらに、人物像の変化の理由を考えさせると、物語のテーマ、主題を考えさせたことになる。

文学的な文章を「読む能力」の基盤Ⅰ = 場面をとらえる力 の系統的な指導の在り方

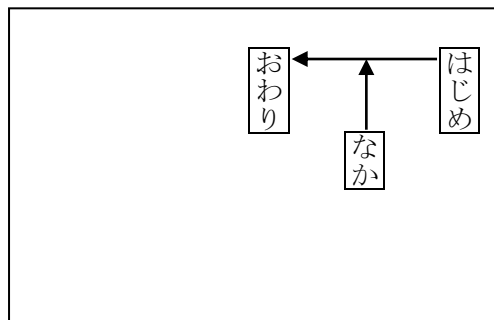
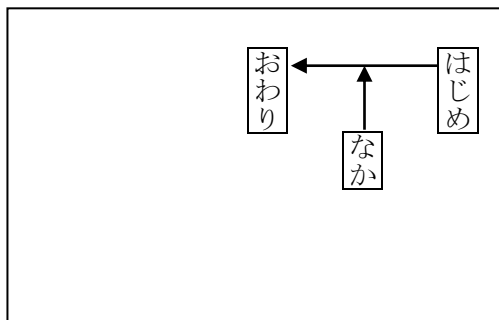
i) 1年生『おおきなななぶ』 = 「場面の様子」を想像する能力



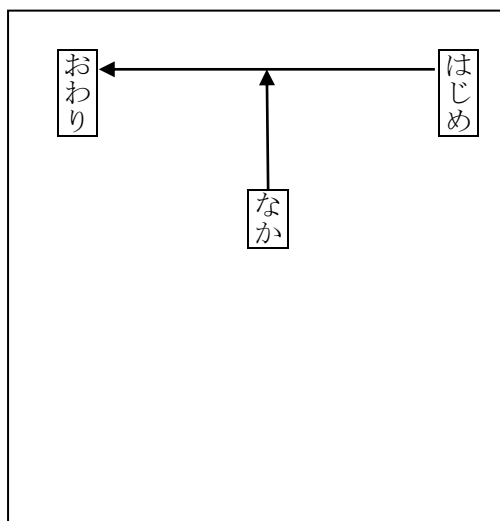
ii) 2年生『スイミー』 = より複雑な「場面の様子」を想像する能力



iii) 3年生『モチモチの木』・4年生『ごんぎつね』 = 「場面の移り変わり」を想像する能力



iv) 5年生『わらぐつの中の神様』 = さらに複雑な「場面の様子」を想像する能力



文学的な文章を「読む能力」の基盤Ⅱ = 叙述・描写を読む力

v) 4年生『ごんぎつね』 = 「叙述」を読む能力

vi) 5年生『大造じいさんとがん』 = 「描写」を読む能力

4 論理的（カテゴリー的）思考力向上のための指導法 = 説明的な文章を「読むこと」の意義

説明的な文章の読解→△ 豊かな教養(あくまでも指導の結果。決して目的にはならない)

→○ 論理を読む能力の育成(これを自分の「話す」「書く」に生かす)

<小学校における「説明的な文章の構造と内容の把握」に関する指導事項>

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。	ア <u>段落相互の関係</u> に着目しながら、 <u>考えとそれを支える理由や事例との関係</u> などについて、叙述を基に捉えること。	ア <u>事実と感想、意見などとの関係</u> を叙述を基に押さえ、 <u>文章全体の構成</u> を捉えて要旨を把握すること。



「順序」「段落相互の関係」「構成」の捉え方を、(◎教科書)で教える



\* 論理的な構造（論理的な思考の枠組み）が「構成」である。

\* 論理的な思考に個性はない。以下のような「思考の枠組み」が世界共通の基盤である

『ぼくのお父さん』（義務教育段階のすべての教育活動を支える「思考の枠組み」の典型）

はじめ

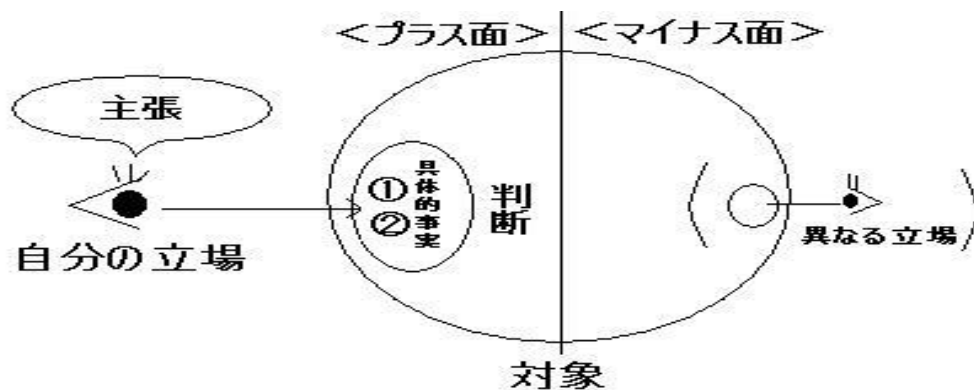
なか①

②

おわり

まとめ

むすび



< 小学校学習指導要領との関連 >

四構成	各要素の要約	構成	順序	段落相互の関係
はじめ	トラックのうんでん手	A D	B	C1 C2 C3
なか	①夜おそくまではたら く ②朝早くからはたら く			
まとめ	お父さんはよくはたら く	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     「事実」と「感想」と「意見」の 論理的結びつき（考えるべき対象について 論理的かつ説得力あるように結びつける）                 </div>		
むすび	ぼくはお父さんによ う になりたい			

A：始めから終わりまで話に一貫性があること

B：「なか」の具体的事実の配列法。\*低学年で重点的に教えること

時間的・空間的・論理的（六種類）順序がある。この場合は時間的順序となる。

C1：「なか」の要素内の関係性（列挙・対象などがある） \*低学年

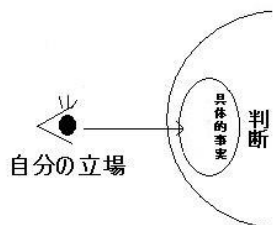
C2：「なか」「まとめ」の要素間の関係性（帰納的）。 \*中学年

C3：「まとめ」「むすび」の要素間の関係性（演繹的）。 \*高学年

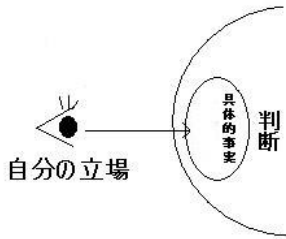
\*C23：「なか」「まとめ」を一つとしてとらえると「むすび」との関係性は「事実と意見」となる

D：四要素の配列の工夫。「むすび」を始めに持つてくると頭括型となる等 \*高学年

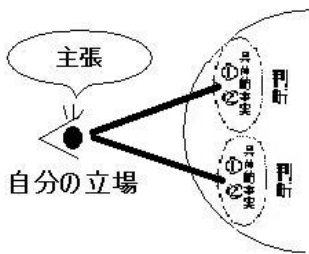
- i) 3年生『すがたをかえる大豆』＝「段落相互の関係」を捉えて活用する能力  
\*「なか」の多種・多様性を考えることによって思考を深める



- ii) 4年生『アップとルーズで伝える』＝「段落相互の関係」を捉えて活用する能力  
 ＊「なか」の見方を変えることによって思考を深める



- iii) 5年生『生き物は円柱形』＝「構成」を捉えて活用する能力  
 ＊「まとめ」を複数考えることによって思考を深める



5 全教科指導の基盤となる「言語活動」とは

昨年までの学習指導要領：各教科等を貫く充実すべき重要事項の第一＝「言語活動」の充実  
 ↑ 新学習指導要領：「言語活動」のますますの充実

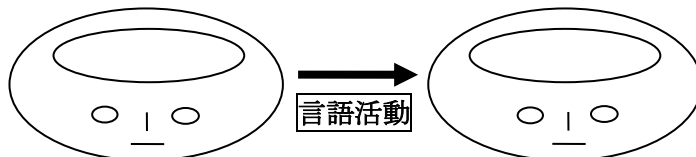
「言語活動」の目的＝各教科等の目標を「言語活動」とおして達成させる

今までの授業：混沌としている＝わかつたつもりになっている  
 (教えられた片々の知識・技能は覚えてはいるが整理されていない状態である)

↓ 「確かな学力」育成のために

これからの授業：秩序を持って整理されている＝本当にわかつた  
 (それぞれの知識・技能の関連性がわかり全体の中で機能している状態である)

＊整理し秩序立てるため(本当にわかるため)の手段が言語活動である



例えば「説明」という言語活動とは、「説明」することによって、その授業内容(単元の指導内容)を本当にわからせる(「確かな学力」にまで高める＝習得させる)ものでなければならない。

	西 暦	事 柄
	5 9 2	推古天皇即位
飛	5 9 3	聖徳太子摂政
鳥	6 0 7	遣隋使派遣
時	6 3 0	遣唐使派遣
代	6 4 5	大化の改新
	7 0 8	和同開珎流通
奈	7 1 0	奈良に遷都
良	7 2 4	聖武天皇即位
時	7 5 2	東大寺大仏完成
代	7 5 3	鑑真来日

年表に書かれていない重要な事柄をひとつあげ、あなたがなぜそれを重要だと思ったか理由を示して説明しなさい。

## 6 各教科等における教科特有の「見方・考え方」を生かした言語活動の実践

例：4年生音楽「旋律のよさを感じ取ろう」－主活動「鑑賞文」を書く

### 『白鳥の鑑賞文』

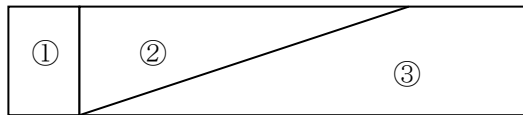
な か	① 特徴・よさ(曲想と変化＝指導事項ア)	↓*大きなこと(低学年の順序)
な か	② 特徴・よさ(要素の関わり＝指導事項イ)	↓*小さなこと(低学年の順序)
まとめ	想像したことや感じ取ったこと＝指導事項ウ	



音楽科で育成すべき「見方・考え方」が十分にはぐくまれている。それにより『何ができるか』も感じ取ったであろう。(2015・11 湘南白百合学園小学校における実践)

## 7 国語科を中核としたカリキュラムマネジメントの実施（例：社会科との教科横断的授業）

### <教科横断的な授業の流れ>



- ① 第一次：横断的授業の全体の見通し
- ② 第二次：国語科授業（教科書教材を用いて）
- ③ 第三次：社会科授業（国語科の学びの活用）

・3年生 単元「スーパーマーケットの工夫について発表会をしよう」 \*言語活動 = 発表会

(2014・10 春日部市立備後小学校における実践)

- ① 第一次：社会科見学（スーパーマーケット）の想起。単元目標の確認。
- ② 第二次：『すがたをかえる大豆』の「思考の枠組み」を用いて発表会をすることの理解。

はじめ	いろいろな食品にすがたをかえている	* <b>まとめ</b> の先取り = 双括型構造
な か	① 豆撒きの豆・煮豆（そのままの形） ② きなこ（粉に挽く）*③④省略 ⑤ 枝豆・もやし（育て方の工夫）	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>既知</b> ↓&lt;順序&gt; <b>未知</b> </div>
まとめ	いろいろな食品にすがたをかえている	*順序性については「既知→未知」以外にも「単純→複雑」「一般→特殊」等が考えられるが、単元の目標(社会科の目標実現)のために最も効果的なものを活用させていくことが大切である。

- ③ 第三次：発表会にむけての発表原稿の作成。「まとめ」ごとにグループ化（「このように安く売らるためにいろいろな工夫をしています」等）。取材してきたことを「既知→未知」の観点で再構成。第一次発表及び評価会。本発表に向けての再取材（社会科の授業において）。

\*児童たちは社会科で地域のスーパーへ見学に行った。そこで様々なことを観察し説明を聞いてきたことになる。ここにおいては児童の頭の中は混沌とした状態（知識が整理できていない状態）であると言える。これらの知識を整理するための「言語活動」が「発表会」である（「発表会」は上手に見栄えよく発表することが目的なのではない）。その整理するための「思考の枠組み」が教材の構成である。まず「まとめ」をグループで限定させ発表会の目的を明確にした。そして、「まとめ」の根拠となる具体的事実を「なか」として抽出させた。さらに、「なか」を「既知→未知」で配列させて第一次発表を行わせた。すると、他のグループからの評価等により、「私たちの

班は見学前から知っていること（皆が知っているようなこと）ばかりだった」等と気付くことになる。そうなると、必然的に児童は「再度スーパーに取材を申し込む」などの「未知」のものを追究するために新たな行動を起こすことになる。思考を整理し意味づけることによって新たな気付きが生まれ社会科という教科の目標を深く達成していくための契機となったのである。

## 8 全教科における「主体的・対話的で深い学び」のために

<実践> 総合的な学習の時間：課題「人間の『体を守る仕組み』はどうなっているのだろうか。」

\*主体的な学びの姿（各自がこのように論理的に表現できる）

**はじめ**わたしたちがこきゅうすると、空気といっしょに病気の原因になる微生物もすいこまれます。微生物は手にもたくさん付いていてそれが口を通して体に入ってくることもあります。でも、安心してください。わたしたちの体には、自分で自分を守るための仕組みがあるのです。

**なか①**まず、体をおおっている皮ふです。きずでもないかぎり微生物は皮ふを通して体の中に入ることはありません。それだけでなく、皮ふが老化しあかになって落ちるとき微生物も落ちてしまいます。

**なか②**それから、なみだも目から入ろうとする微生物を流してしまいます。しかも、なみだは微生物を殺す働きもします。

**おわり**楽しく遊んでいるときもこうして勉強しているときもねているときでさえも、わたしたちの体ではたえず自分を守るための仕組みが働き続けています。（←まとめ）ときどき体にごくろうさまと言ってあげたいですね。（←むすび）

↑

\*対話的で深い学びの姿

（各自の考えが集まり論理が強くなる＝「まとめ」「むすび」が強くなる＝よりよく課題が解決できる）

## 9 まとめ